

認定特定非営利活動法人大阪自然史センター 2023年度事業報告

2023年1月1日～12月31日

I 事業実施報告

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況がいまだに続きます。2023年度の定期総会も昨年に引き続き、オンラインで開催することといたしました。

2023年度は大阪自然史センターがNPO法人化して22年、また、2014年3月に認定特定非営利活動法人となってから10年の節目となりました。「～社会と自然と博物館をつなぐ～自然を見つめ、自然から学び、自然を楽しく伝え、自然を大切に思う気持ちを育む」というミッションの中で、大阪市立自然史博物館と長年培ったパートナーシップを生かし、人も自然も生き生きできる社会を目指してきました。

年初はまだ厳しい状況ではありましたが、春先には、マツコ、マッコの風が吹き、ネットショップには従来に増すご注文をいただきました。また、西宮市から貝類館の普及業務の仕事をいただき、夏前から取り組みをはじめ、好評を得ています。春からのコロナ変異株対策もあって感染拡大も落ち着きを見せ、諸活動を展開することができましたのは、社員のみなさんのご理解と支えがあってこそのもので、厚く感謝いたします。

秋冬の博物館+自然史センターでは、4つの大型イベント「友の会秋まつり」、「ホネホネサミット」、「子どものためのジオ・カーニバル」、そして「大阪自然史フェスティバル2023」がありました。とくに、「大阪自然史フェスティバル」は開始20年目の記念の年でした。この間に築き上げたネットワークから数多くの団体、企業、地域グループのご参加によって出展ブースもコロナ前に戻り、19,000人ものご来場をいただきました。

昨年、一昨年と多くの方々にいただいたご寄付は若手スタッフの登用に活用させていただき、博物館コミュニティの賑やかな交流活動に繋げることができました。

センターの基盤を強化するための寄付金募集では、友の会々員の普通会员から賛助会員への移行促進や、マンスリーサポーターの募集にも、多くの方々にご賛同いただきました。日ごろから応援していただいている方々にも、多くのご支援をいただきました。

「社会と自然と博物館をつなぐ」活動を次の世代にしっかり手渡す数々の活動を前に進めることができました。誠にありがとうございました。

2024年もコロナ禍は気がかりではありますが、事務局体制も社会経済の流れをくみ、活力ある活動を支えられるような組織を引き続き築き、堅実な業務を継続する方針です。意欲にあふれたスタッフを維持・充実し、センター活動を担うには、博物館のユーザーコミュニティの深いご理解が不可欠と考えています。

意欲・経験・技能を併せ持つ社員の皆様には、友の会事業、普及啓発事業、調査研究事業などに参画していただくなど、幅広くセンターの活動を支えていただきますよう、お願いいたします。

II 各事業について

1. 友の会事業

[内 容]

大阪市立自然史博物館友の会を組織し、会報 Nature Study 毎月の 12 回発行と月例ハイキングや友の会イベントなど自然観察行事等を 37 回計画し 35 回実施した。(2 回雨天中止)

[場 所]

大阪市立自然史博物館および大阪府内など

[日 時]

2023 年通年

[対象者]

大阪市立自然史博物館友の会へ入会した市民等 1701 名(うち賛助会員 115 名)

2. ミュージアムサービス事業

[内 容]

大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センターへの来館・来場者に自然史科学の普及およびサービスを実施するため、大阪市から占用許可を受け、博物館の掲げる趣旨に沿って、自然史に関する書籍・自然観察道具やグッズ等を特別展示や各種イベント開催に合わせて販売。多くの博物館来館者に満足していただけるようサービスの提供に努めた。

各分野の学会や出張販売の機会があれば積極的に出展した。また、全国の書店やミュージアムショップへの委託・卸販売など、店舗の運営と平行させて事業展開を行った。「いきもにあ」、「博物ふえす 2023」、「神保町ヴンダーカンマー(東京)」、「京都ヴンダーカンマー」、「骨々展 2023」、「わくわく野鳥博」など、生き物をテーマにしたイベントに参加した。ネット販売にも力を入れ、多くの方々にご利用いただいた。

2023 年に企画した新商品は、「大阪湾クジラ T シャツ」、「ホネホネ T シャツ」、「大阪湾てぬぐい」、「はくぶつかん いきものマスキングテープ」など。また、友の会評議員・村井貴史氏の協力により「クラゲ」グッズのシリーズを制作。そのほか、イラストレーターの小田隆氏とは「ズールとゴルゴサウルス」グッズシリーズを制作し、切り絵作家いわたまいこ氏の切り絵デザインの商品も多数リニューアル展開した。

[場 所]

大阪市立自然史博物館ほか各種学会・イベントなど

[日 時]

2023 年通年

[対象者]

一般来館者・各種学会・イベント参加者等

3. ボランティア事業

実施なし

4. 出版事業

[内 容]

自然史科学の書籍の発刊企画を行い、自然観察を通じて自然史科学の普及に努める準備をした。
「知るからはじめる外来生物」「海浜植物」を増刷した。

5. 調査研究受託事業

[内 容]

自然史科学の振興発展のため貝塚市自然環境基本調査事業、能勢町標本活用等業務等を受託・実施した。

[場 所]

大阪府内など

[日 時]

2023 年通年

6. 普及教育事業

[内 容]

自然史科学の普及教育のため「大阪自然史フェスティバル」等の各種イベント・事業のデザインやイラスト、チラシ・資料・看板等作成、西宮市貝類館ワークショップやイオンショッピングセンターワークショップ、茨木市の「いばらきいきもの博」等を受託・実施した。また、博物館維持管理の一環として大阪市立自然史博物館子ども向けワークショップ業務や「アンダーグラウンド展リターンズ」キッズマップデザイン等を受託実施した。

[場 所]

大阪市立自然史博物館、大阪府内など

[日 時]

2023 年通年

7. 自然保護・自然環境保全に関する事業

関西自然保護機構

[内 容]

関西自然保護機構を組織し、会誌の発行、シンポジウムの開催、研究支援事業の実施、自然保護に関する提言、調査研究の受託、その他機構の目的を達成するために必要な事業を実施した。

[場 所]

大阪市立自然史博物館、大阪府内など

[日 時]

2023 年通年

8. 施設運営管理事業

高槻市立自然博物館の施設管理運営事業

[内 容]

自然史科学の振興普及および自然保護・自然環境の保全に関する体験施設の運営管理事業として、高槻市立自然博物館(前高槻市芥川緑地資料館)の施設管理運営事業を、地元の NPO 法人芥川倶楽部と大

阪自然史センターが共同で「あくあびあ芥川共同活動体」を組織し、センターが主に人事経理総務部門を受け持ち、高槻市の仕様に基づき施設の維持管理及び博物館運営に取り組んだ。

[場 所]

高槻市南平台 5-59-1 高槻市立自然博物館

[事業期間] 2022 年度から 2026 年度末まで

Ⅲ 社員総会の開催状況

[名 称] 2022 年度（第 22 期）第 23 回定期総会

[場 所] 大阪市立自然史博物館会議室本部 Zoom 会議

[日 時] 2022 年 2 月 4 日（土）午後 3 時 00 分～4 時 00 分

[出席者数] 52 名（社員総数 76 名 本人出席 29 名、委任状出席 23 名）

[内 容]

議 事

第 1 号議案. 2022 年度事業報告（事業報告書参照）

事務局から定款記載の事業を例年どおり実施したことが報告され、出席社員の賛成多数をもって 2022 年度事業報告を承認した。

第 2 号議案. 2022 年度収支決算報告（財産目録、貸借対照表、損益計算書、活動計算書参照）

事務局から決算内容が説明され、監事から監査報告があり、出席社員の賛成多数をもって 2022 年度決算を承認した。

第 3 号議案. 2023・2024 年度事業計画（事業計画書参照）

事務局から定款記載の事業を実施する旨の提案説明があり、出席社員の賛成多数をもって 2023・2024 年度事業計画を承認した。

第 4 号議案. 2023・2024 年度活動予算（活動予算書参照）

事務局から活動予算について提案説明し、出席社員の賛成多数をもって 2023・2024 年度予算を承認した。

第 5 号議案. 役員改選について

議長は、役員全員が任期満了につきその選任を議場に諮ったところ出席社員の賛成多数をもって次の者が次期役員に選任され、被選任者は、いずれもその就任を承諾した。

理事（再任）11 名

梅原 徹・道盛 正樹・奥平 敬元・井上 淳・丸山 健一郎・楠井 晴雄・

上田 和歌子・中田 兼介・乾 公正・平井規央・木村里美

理事（新任）1 名

小林春平

監事（再任）2 名

左木山 祝一・三宅 卓

理事任期満了退任

白木 江都子・波戸岡(前迫) ゆり・渡邊 岳志

以上の議案について事務局より一部誤植を修正し、また、所轄庁の指示に基づき文言を修正することがある旨を説明し、出席社員の満場の一致をもって承認した。

IV 理事会の開催状況

第1回理事会

[名 称] 2023 年度第 1 回理事会
[場 所] Zoom 会議(本部事務局)
[日 時] 2023 年 2 月 4 日 (土) 午後 2 時 00 分～3 時 00 分
[出席者数] 13 名 (総数 14 名 本人出席 9 名、議決権行使書 4 名)
[内 容]

議題 1. 総会提出議案について(総会資料参照)

議題 2. 役員選出(案)

理事(再任) 11 名

梅原徹・道盛正樹・奥平敬元・井上淳・丸山健一郎・楠井晴雄・上田和歌子・
中田兼介・乾公正・木村里美・平井規央

理事(新任) 1 名

小林春平

監事(再任) 2 名

左木山祝一・三宅卓

理事任期満了退任 3 名

白木江都子・波戸岡(前迫)ゆり・渡邊岳志・

議題 3. 次回理事会について

第 2 回理事会の 2 月 8 日開催について、全役員の上承を得た。

以上、事務局提案のとおり出席理事全員の一致で承認された。

第2回理事会

[名 称] 2023 年度第 2 回理事会
[場 所] Zoom 会議(本部事務局)
[日 時] 2022 年 2 月 8 日 (水) 午後 1 時 00 分～1 時 20 分
[出席者数] 12 名 ((総数 12 名 本人出席 10 名、議決権行使書 2 名)
[内 容]

議 事

議題 1 理事長の選任について

議長は定款第 13 条の規定に基づき、理事長 1 名を選任したい旨を述べ、慎重に協議した結果、出席理事全員の一致をもって梅原 徹氏が選任された。なお、被選任者は、席上、即時、その就任を承諾した。

議題 2 その他

白木理事の退任に伴い、あくあぴあ芥川運営委員会の委員に丸山理事に入ってもらうことを了承した。

以上、事務局提案のとおり出席理事全員の一致で承認された。

第3回理事会

[名 称] 2022年度第3回理事会
[場 所] Zoom 会議
[日 時] 2023年3月25日(土)午後5時00分～6時00分
[出席者数] 11名 (総数12名 本人出席 9名、議決権行使書 2名)
[内 容]

議 事

議題1 事務局・執行体制及び職員処遇にかかる規則等の整備について

- (1)昨今の物価上昇などを鑑み、職員・アルバイト共に平均2%相当の昇給を決定。昇給額は個別に査定する。
- (2)昨年度の業績が好調であったため、昨年度の事業に従事した全従業員を対象に特別賞与の支給を決定。支給額は個別に査定し、3/31付で支給する。
- (3)講師謝礼の取り扱いについて検討。基本的には法人で依頼を受け、業務で対応する。個人に対して依頼される専門委員等は休暇を取得して個人で対応する。

議題2 2023年度事業について

4/29(土)に活動報告会を博物館と合同で開催する。昨年3年振りに開催された「大阪自然史フェスティバル」をメインテーマに設定。これまでに関わっていただいた学生アルバイトを数名お招きし、博物館の普及教育の現場となるフェスティバルの可能性についてなど、関係者を交えたパネルディスカッションを予定している。

報告 監督官庁への諸届け出事務について

大阪府・大阪市への年度末の届け出書類は全て提出済み。

以上、事務局提案のとおり出席理事全員の一致で承認された。

第4回理事会

[名 称] 2023年度第4回理事会
[場 所] Zoom 会議室
[日 時] 2023年8月20日(日)午後4時30分～5時30分
[出席者数] 12名 (総数12名 本人出席 10名、議決権行使書 2名)
[内 容]

議 事

議題1 2023年度上半期事業の進捗について

(1)ミュージアムサービス事業

巡回特別展の「毒」及び現在開催中の「恐竜博2023」が好調で来店者も多く売上も非常によい。恐竜展では小田隆氏の描きおろし線画のオリジナル商品を展開。

(2)普及教育事業

ワークショップ事業では、自然史博物館子どもワークショップや出張ワークショップ「イオンモール藤井寺」、「りんくうたうんシークル」などを展開。

6月からは、プロポーザルで獲得した西宮市貝類館の子どもワークショップ事業を開始させた。当事業は2023年6月から2026年3月までが契約期間。

(3)管理運営事業

高槻市立自然博物館の指定管理業務は 2022 年度事業が無事に終了し、7 月 9 日に会計監査を実施。2023 年度事業を計画通り開始している。

(4)寄付事業

5 月にマンスリーサポーター（毎月定額寄付）の募集を実施し、約 80 名の寄付者を獲得した。これにより年間およそ 100 万円弱の寄付金収入を想定している。サポーターを維持できるよう、定期的に寄付者への情報公開やアプローチを計画している。

議題 2 事務局執行体制について

(1)職員の採用状況

年次雇用職員の木村里美の退職に伴い新規スタッフの募集を実施し、神山雄人と坂田洋乃の二名を新規採用した。当初三か月間は試用期間とし、週 4 日の年次雇用職員として業務にあたる。

(2)事務所狭隘対策について

事業の拡大やスタッフの増員に伴い、現在の事務局では必要数のデスクを配置して十分な作業スペースを確保するのが困難である。別途近隣の賃貸物件をサブの事務所として設置するなど検討を進めている。

報告 1 高槻市自然博物館（あくあびあ）の運営について

高槻市の指定管理業務担当が教育部局から土木部局へ移管。公園課の担当者との顔合わせは 8/23 を予定している。

報告 2 認定 NPO 法人の継続手続きについて

2024 年 3 月 30 日の認定 NPO 法人の認定期間満了に伴い、監督官庁である大阪市への継続手続きの申請を 2023 年 10 月頃に開始する。次期の認定期間は 2024 年 3 月 31 日から 2029 年 3 月 30 日の 5 年間となる予定。

報告 3 その他

2024 年は長居植物園の開園ならびに自然史博物館の長居公園への移設 50 周年である。植物園と自然史博物館では 2024 年 4 月末に合同イベントを開催予定。自然史センターと博物館合同の活動報告会は 5 月以降に実施する。

また、2024 年はあくあびあの創立 30 周年、博物館相当施設として 10 周年の年である。あくあびあでは、高槻市と協力して周年企画の開催などを検討している。

次回の理事会は 2023 年 12 月 23 日（土）を予定。

上記の決議を明確にするため、本議事録を作成し、議長ならびに議事録署名人 2 名がこれに記名押印をする。

第 5 回理事会

[名 称] 2023 年度第 5 回理事会
[場 所] Zoom 会議室
[日 時] 2023 年 12 月 23 日（土）午後 3 時 00 分～4 時 30 分
[出席者数] 11 名（総数 12 名 本人出席 8 名、議決権行使書 3 名）

[内 容]

議 事

議題 1 2023 年度事業・決算見込みと 2024 年度事業・予算について

(1)ミュージアムサービス事業

巡回特別展の「毒」及び夏季開催の「恐竜博 2023」が好調で年間収益としては過去最高の売上になりそうだ。ネットショップも好調。

年明けのプロポーザルは新ショップ事業担当の坂田と川上（上田）で臨む。一般利用者・内部職員に対しショップ事業を評価する目的でアンケートを実施。十分に分析・課題抽出の上で提案に生かす。

(2)普及教育事業

ワークショップ事業では、自然史博物館子どもワークショップや出張ワークショップ「イオンモール藤井寺」、「りんくうたうんシークル」などを展開。8月に新しく加入した普及教育スタッフの神山も現場での場数を踏んで成長している。

6月から事業を開始した西宮市貝類館の子どもワークショップ事業では、貝類館の学芸員の協力を得て実施しているワークショップも高評価を得ている。当事業は 2023 年 6 月から 2026 年 3 月までが契約期間。

(3)管理運営事業

高槻市立自然博物館の指定管理業務は 2023 年度事業を計画通り実施できている。今回は指定管理者を対象とした監査が行われる年度にあたり、12月26日（火）に高槻市役所で本監査を受ける予定。

(4)寄付事業

5月にマンスリーサポーター（毎月定額寄付）の募集を実施し、約 80 名の寄付者を獲得した。サポーターを維持できるよう、年末に感謝状をお送りする。

議題 2 事務局執行体制について

(1) 職員の状況について

新しく入った 2 名のスタッフ（神山・坂田）は担当事業に就きながら育成中。11 月から柴田が休職に入っている。状況をみながら、本人と相談の上で今後の就業について考えていく。

(2)事務所狭隘対策について

事務所の狭隘対策として、賃貸物件（住吉区長居西 2 丁目）を契約した。取り急ぎ法人書類の保管場所として利活用を進める。

議題 3 役員（理事）の去就について《総会案件》

木村（米澤）里美理事が 12 月 31 日付で退任の希望。理事会ではこれを受理し、総会にて承認を得たい。追加の理事候補として、西澤真樹子と山中亜希子を推薦し、総会で承認を得る。

議題 4 総会・理事会の開催（案）について

日時：2024 年 2 月 3 日（土）午後 1 時から理事会、午後 3 時から総会を開催予定

場所：大阪市立自然史博物館会議室（Zoom 会議・総会方式）

報告 1 認定 NPO 法人の更更新手続きについて

認定 NPO 法人の資格が 2024 年 3 月 31 日で期間満了となるため、現在、大阪市に継続申請の手続きを行っている。次期の認定期間は 2024 年 3 月 31 日から 2029 年 3 月 30 日の 5 年間となる予定。